

「現地を訪問して想うこと」

参加者氏名：竹村 公一

卒業年：昭和53年 卒業学部：経営学部

「東北応援ツアー」に参加して、改めて自分自身何ができるのか、何をしなければならぬのかを考えさせられた。

① 被災地に関心を持つこと

震災から5年半以上経過したが、被災地では復興に向けての工事が行われているものの、相当期間を要すると思われる。一方、震災に関する報道等の情報は少なくなるばかりである。

現地を訪問して、見たこと、聞いたことは、やはり貴重である。映像や、文字等では伝わらないものがある。

まず、「震災」、「復興」について関心を持つこと。そうしないと、情報は入ってこない。

「東北応援ツアー」は内容の濃い、非常に有意義なものだと思う。

② 支援

観光を含めて現地を訪問、宿泊等すること。また、現地の物産を購入、消費すること。現地の物産を地元で購入可能であれば、現地へ行かなくてもできる。

東北は広くて行くところ、おいしい食べ物もたくさんある。息の長い支援活動が大切である。

今回、「東北応援ツアー」に参加する機会を頂き、貴重な体験をさせて頂いた。東北復興に関心を持つ交友が集まり、世代、学部、地域を越えて意見交換を図ることができた。交友会に感謝を申し上げます。特に岩手県交友会菊池会長を始め、岩手県交友会の多くの方々には、お忙しいところ、大変お世話になり、ありがとうございました。

今回で5回目となる「東北応援ツアー」、他の学校、企業でこのような大きい規模の支援を継続して行っているところはないと思う。社会的にももっと注目されてよいのではないかと思う。

個人的には、日程の中に1日程、ボランティア活動を組み入れることができればと思う（例：日程を1日伸ばし、「ボランティアコース」とする）。

これからも、被災地と、大学（交友会）との、息の長い橋渡しとなる活動を、継続して頂きますようお願いします。